

計画名：高速道路IC等と交通拠点等のネットワーク強化を促進するみちづくり

都市整備課・道路建設課

計画の名称	1 高速道路IC等の交通拠点等のネットワーク強化を促進するみちづくり		
計画の期間	平成30年度～令和4年度(5年間)	交付対象	愛媛県
計画の目標	地域経済の発展及び広域的な交流・連携等に必要不可欠な高速道路等と、交通拠点及び生活圏域を結ぶICアクセス道路等の整備を促進し、物流及び交流ネットワークの強化を図る。		

計画の成果目標(定量的指標)	・交通拠点または生活圏域から、高速道路IC等における移動時間を24%短縮する。
----------------	---

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			達成率	備考							
	当初現況値 (H30当初)	中間目標値 (H32末)	最終目標値 (34末)									
① 交通拠点または生活圏域から、高速道路IC等における整備前後の移動時間の縮減率を算定する。 縮減率=Σ [整備後のアクセス時間(時間) / 整備前のアクセス時間(時間)]	目標値: 100%	-	76%	84%	令和2年度に一部事業について、他の整備計画や補助事業に移行する必要が生じたため、令和元年度までに完了した事業の実績で評価した結果、最終目標に対し15ポイントの縮減が達成できなかった。							
	実績値:		91%									
全体事業費(計画)	合計(A+B+C)	8980百万円	A	8980百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%	進捗率 (実施事業費/全体事業費)	32.8%
実施事業費(最終)	合計(A+B+C)	2945百万円	A	2945百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%		

1. 交付対象事業

A1 道路事業																			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	実施事業費 (百万円)	進捗率 (%)	備考
											H30	R1	R2	R3	R4				
12-A1-1	道路	一般	愛媛県	直接	-	県道	改築	(一)今治丹原線 朝倉下	現道拡幅 L=0.46km	今治市						700	228	32.6	
12-A1-2	道路	一般	愛媛県	直接	-	県道	改築	(一)新居浜東港線 観音原	バイパス L=0.80km	新居浜市						2,180	70	3.2	
12-A1-3	道路	一般	愛媛県	直接	-	県道	改築	(一)砥部伊予松山線 (アクセス道路)	バイパス L=1.6km	伊予市、松前町						100	115	115.0	
12-A1-4	街路	一般	愛媛県	直接	-	S街路	改築	(都)来往余戸線	バイパス L=0.49km	松山市						300	38	12.7	
12-A1-5	街路	一般	愛媛県	直接	-	S街路	改築	(都)余戸北吉田線	現道拡幅・バイパス L=1.28km	松山市						2,000	1,100	55.0	
12-A1-6	街路	一般	愛媛県	直接	-	S街路	改築	(都)松山駅西口南江戸線	バイパス L=0.46km	松山市						3,700	1,394	37.7	
合計												8,980	2,945						

2. 事業効果の発現状況

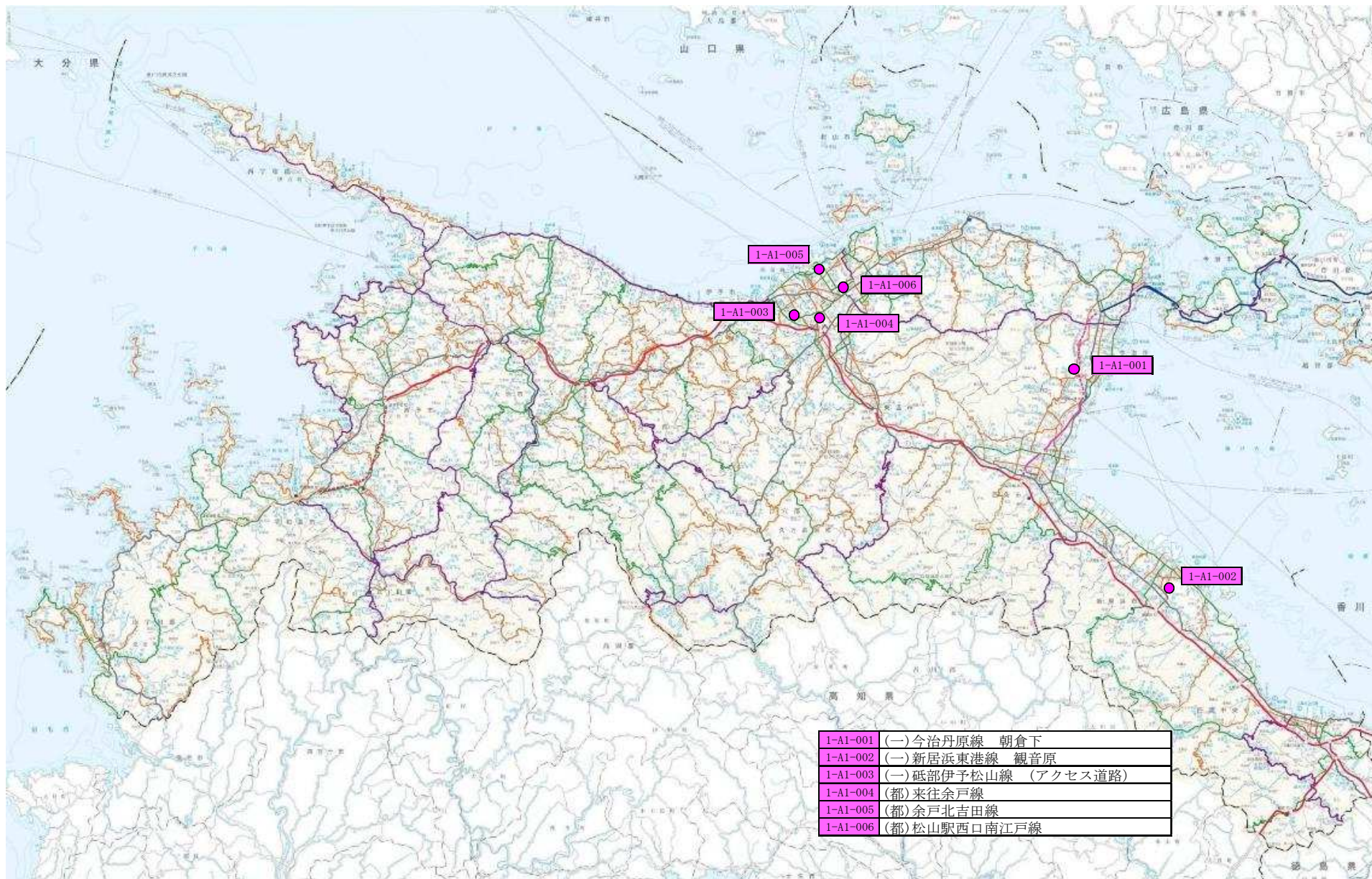
I 定量的指標に関連する 交付対象事業(各要素事業)の 効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>(一) 砥部伊予松山線の供用を平成31年度に開始し、新車両基地・貨物駅から伊予IC間のアクセス時間が縮減された。</li> <li>(都) 余戸北吉田線については、起点側約400m間の供用を令和2年度に開始したことから、アクセス時間が縮減された。</li> </ul>
II 定量的指標以外の交付対象事業の効果の 発現状況 (必要に応じて記述)	

3. 特記事項(今後の方針等)

令和2年度からは別整備計画や補助事業に移行し、事業を推進する。
---------------------------------

(参考図面) 社会資本整備総合交付金

計画の名称	1 高速道路IC等の交通拠点等のネットワーク強化を促進するみちづくり	交付対象	愛媛県
計画の期間	平成30年度 ~ 令和4年度 (5年間)		



# 事業概要

## 一般県道 砥部伊予松山線【アクセス道路】(伊予市、松前町)

JR松山駅付近連続立体交差事業は、JR予讃線の松山駅を中心とした約2.4kmの区間を高架化することによって、既存の踏切を取り除き、東西市街地の分断や交通渋滞の解消を図るとともに、物流拠点である貨物駅を伊予市・松前町に移転すること等により、松山都市圏域における交流の促進を通じて活力あるまちづくりを実現するものである。

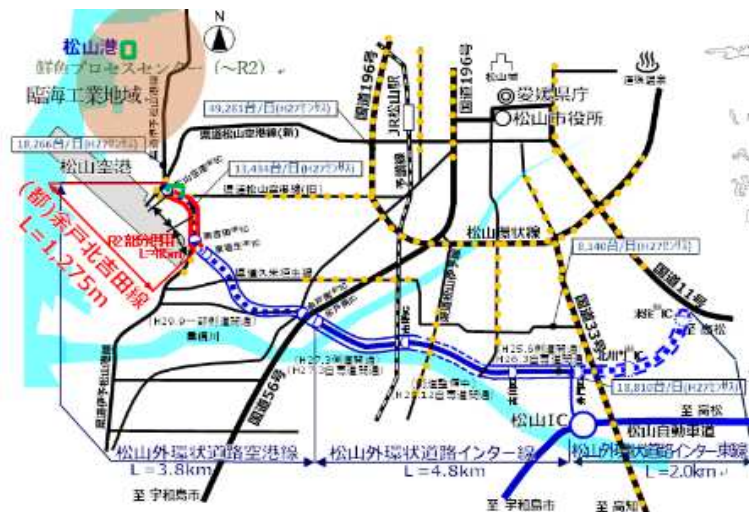
周辺幹線道路から、新車両基地・貨物駅へのアクセス道路を整備することにより、新たに発生する大型車交通や幹線道路間の通過交通による地域住民への安全性の向上が図られた。



## (都)余戸北吉田線(松山市)

(都)余戸北吉田線は、国・松山市と協同で整備を進める松山外環状道路空港線の側道となる幹線道路である。県庁所在地松山市の中心市街地外縁に整備しており、市内の渋滞緩和に寄与するとともに、松山空港や、松山港、臨海工業地域が位置する臨海部と、松山IC等の広域交通拠点や工業団地を連絡する物流アクセス道路でもある。

令和2年度に起点側約400m間の供用を開始したことから、アクセス時間が短縮された。



整備前

整備後